

シラバス参照

科目名	薬学概論
配当年次	1年次
開講期間	前期
単位数	1
担当教員	井上 直子(イノウエ ナオコ) 井上 裕(イノウエ ユタカ) 上田 秀雄(ウエダ ヒデオ) 内田 昌希(ウチダ マサキ) 大嶋 繁(オオシマ シゲル) 大竹 一男(オオtake カズオ) 大山 翠(オオヤマ ミドリ) 小林 大介(コバヤシ ダイスケ) 関 智宏(セキ トモヒロ) 高塚 人志(タカツカ ヒトシ) 高山 淳(タカヤマ ジュン) 松崎 広和(マツザキ ヒロカズ) 茂木 肇(モテキ ハジメ) 八巻 努(ヤマキ ツトム) 一色 恭徳(イツシキ ヤスノリ)
期間・曜日・時限・教室	前期 火曜日 1時限 18-101

※	
授業の目的・目標	<p>(1) 授業の概要 薬学概論は、講義、講演、ならびに体験学習を通じて、薬学領域ならびに薬剤師の職域やスキルの概要を捉え、それらの基盤となる倫理観を身に着けます。</p> <p>(2) 授業の目的 医療者である薬剤師は、医療全般の制度や仕組みや薬剤師という職業を理解し、他の医療者との連携を図ることで初めて社会に貢献できます。本授業は、専門的な学習を開始する窓口となる導入教育教科です。従って、医療者を目指す薬学生として、薬学の歴史と領域、薬剤師業務と利用制度、生命および医療倫理、薬剤師として必要な基本的スキルを知り、薬学の学問分野と薬剤師の職能との関連性について理解することを目的とします。</p> <p>(3) 修得できる力 ①知識・理解、②汎用的技能、③態度・志向性、④問題解決能力</p> <p>(4) 授業の到達目標 今後の学習を円滑に進めるために、修学の過程と到達目標を明確化することを目指します。</p> <p>(5) 各個人もしくはグループが、個々の課題に取り組むことで、問題解決能力の向上につなげます。</p>
準備学習等の指示	<p>授業開始前には必ず講義スケジュールにより当日の授業実施教室や内容を確認してください。予習が必要な内容を含みます。指示により必ず対応してください。</p> <p>薬学生、医療人となる人材としての倫理観を求められます。他者の行動や意見を尊重・配慮する態度が求められます。</p>
講義スケジュール	<p>1 薬学および薬剤師の歴史 (小林)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療や医薬品に関する歴史的背景を理解し、薬学や薬剤師が医療に対して果たしてきた役割を概説できる。(知識・理解、社会的責任) →[A-(1)-④-1], -(1)-④-2], -(1)-④-3] <p>2 医療における薬剤師の役割 (井上直)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の医療費および医療制度の概略を理解し、医療現場における薬剤師の業務について概説できる。(知識・理解) ・日本の医療費および医療制度の概略を理解し、救急医療、災害医療、公衆衛生における薬剤師の業務を概説できる。(知識・理解) →[A-(1)-②-1], -(1)-②-2], -(1)-②-3], -(1)-②-6], -(1)-③-3], -(1)-③-4], [B-(3)-①-1], -(3)-①-2], -(3)-①-3], -(3)-①-4], -(3)-①-5], -(3)-①-6], -(3)-①-7], -(3)-②-1], -(3)-②-2], -(3)-②-3], -(3)-②-4], -(4)-①-5] <p>3 社会のニーズと薬剤師業務 (大嶋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養、運動、セルフメディケーションなど通じた地域住民の健康な生活確保に対する薬剤師業務の重要性について説明できる。(知識・理解) ・在宅医療における薬剤師業務および在宅医療における薬剤師の新たなスキルの重要性について説明できる。(知識・理解) →[A-(1)-②-6], B-(4)-①-1], -(4)-①-2], -(4)-①-3], -(4)-①-4], -(4)-①-6], -(4)-②-1], -(4)-②-2], -(4)-②-3], -(4)-②-4], -(4)-②-5] <p>4-5 不自由体験 (関智)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義や講演および自らの不自由体験を通じて、高齢者や障害を抱えている生活者およびその介護・介助にあたる人の思いを理解できる。 ・不自由体験を通じて、生活に不自由を抱える生活者の気持ちを考えることができる。(社会的責任) →[A-(3)-②-1], -(3)-②-2] <p>6 医薬品による健康被害と薬学①(間宮、木村光)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬害など健康被害を受けた当事者の思いを理解できる。 →[A-(1)-②-6], -(1)-②-7], -(1)-③-1], -(1)-③-3], -(1)-③-4], -(1)-③-6], -(1)-③-7] <p>7 医薬品による健康被害と薬学②(間宮、木村光)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬害など健康被害を受けた当事者の思いを踏まえ、薬害の根絶および薬による健康被害を最小化するためにどのような取り組みができるかを討議できる。 →[A-(1)-①-2], -(1)-②-1], -(1)-②-2], -(1)-②-6], -(1)-②-7], -(1)-③-1], -(1)-③-3], -(1)-③-4], -(1)-③-5], -(1)-③-7], -(3)-①-8], -(3)-①-9], -(4)-5] <p>8 薬物依存と社会問題①(井上裕、村田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用に関する社会問題の概要を理解し、薬物乱用を防止するための啓蒙活動の主体を担う薬剤師の活動について説明できる。

	<p>→[A-(1)-①-1), -(1)-①-2), -(1)-②-1), -(1)-②-2), -(1)-②-6), -(3)-①-8), -(3)-①-9), -(4)-5]</p> <p>9 薬物依存と社会問題②(井上裕、村田) ・薬物乱用に関する社会問題の概要を理解し、薬物乱用を防止するための啓蒙活動の主体を担う薬剤師の活動について討議できる。 →[A-(1)-①-1), -(1)-①-2), -(1)-②-1), -(1)-②-2), -(1)-②-6), -(3)-①-8), -(3)-①-9), -(4)-5]</p> <p>10 現場で活躍する薬剤師の実際①(土肥、木村聡) ・医療施設で活躍する薬剤師から、実際の薬剤師業務および現場で求められるニーズなどについて理解できる。 →[A-(1)-①-4), -(1)-②-2), -(1)-②-3), -(1)-②-6), -(1)-③-3), -(1)-③-4), -(1)-③-5), -(4)-5], [F-(1)-①-1]</p> <p>11 現場で活躍する薬剤師の実際②(土肥、木村聡) ・医療施設で活躍する薬剤師から、実際の薬剤師業務および現場で求められるニーズなどについて、現状を見据えた議論ができる。 →[A-(1)-①-4), -(1)-②-2), -(1)-②-3), -(1)-②-6), -(1)-③-3), -(1)-③-4), -(1)-③-5), -(4)-5], [F-(1)-①-1]</p> <p>12 生命倫理と医療倫理①(上田) ・生命現象や医療の科学的な取り扱いに関する倫理的な考え方の基本を概説できる。 ・科学技術の進歩と倫理的問題の変遷について概説できる。(倫理観) →[A-(2)-①-1), -(2)-①-2), -(2)-①-3), -(2)-①-4), -(2)-②-1), -(2)-②-2), -(2)-②-3), -(2)-③-1), -(2)-③-2), -(2)-③-3), -(2)-③-4), -(2)-④-1), -(2)-④-2]</p> <p>13 生命倫理と医療倫理②(上田) ・生命倫理および医療倫理に関わる身近な問題について討議することができる。(倫理観、論理的思考力) →[A-(2)-①-1), -(2)-①-2), -(2)-①-3), -(2)-①-4), -(2)-②-1), -(2)-②-2), -(2)-②-3), -(2)-③-1), -(2)-③-2), -(2)-③-3), -(2)-③-4), -(2)-④-1), -(2)-④-2]</p> <p>14 早期体験学習(内田) ・医療の担い手としてふさわしい態度で薬剤師の業務を見聞する。(態度) ・薬学概論で学んだ薬剤師の役割や業務、医療者としての倫理観や姿勢を薬剤師の活躍の場を見聞することで整理し、かつ、自身の意見として組み立てる。(知識・理解) →[A-(1)-①-1), -(1)-②-1)], [F-(1)-①-1), -(1)-①-2]</p> <p>15 薬学概論まとめ ・薬学概論の内容を統合、紐づけして、学びの目標を設定することが出来る。</p>
教科書	スタンダード薬学シリーズⅡ1 薬学総論Ⅱ. 薬学と社会(東京化学同人)日本薬学会編
参考文献	スタンダード薬学シリーズⅡ1 薬学総論Ⅰ. 薬剤師としての基本事項(東京化学同人)日本薬学会編
授業の方法	講義(25%): 教科書、配布資料に基づいて行う。 演習(10%): 形成的評価のための確認試験を行う。 SGD(25%): 課題に基づいてグループ討論を行う。 体験型学習(20%): 施設見学やシミュレーション授業を行う。 発表と討論(20%): テーマに対するグループ発表を行い、発表・討論する。
成績評価方法	1. 評価方法: 報告書とプロダクトおよび授業への参加姿勢 2. 割合: 報告書(70%)、プロダクト(20%)、授業への参加姿勢(10%) 3. 評価基準: 報告書とプロダクトにおける理解度・意見の整合性、また、別に定める受講姿勢に関するルーブリック評価表に応じて総合的に評価を行います。
オフィスアワー	各担当教員を参照
居室	各担当教員の居場所
ホームページ	
その他特記事項	[SBOs] の記載のない項目は、本学独自の内容である。
添付ファイル	